

(様式 1)

「未来の担い手育成プログラム研究指定校」事業報告書(2年次)

1 学校名等

学 校 名	向日市立西ノ岡中学校				校長名	岡本 英明
研 究 主 題	生涯にわたり学び続ける生徒の育成 ～他者と協働して課題解決に挑む～					
研究の目的	課題解決型の学習を通して「自ら課題を解決する姿勢」や「自主的、自律的、計画的に学習に取り組む力」を育成し、資質・能力の向上を目指す。					
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	3	3	4	3	13	27
生 徒 数	118	109	130	15	372	※校長・教頭を含む

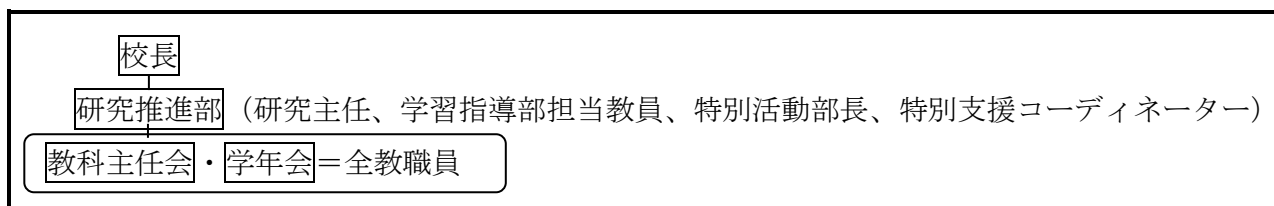
2 研究校の概要

(1) 生徒の実態

本校は、ここ数年、校内での暴力行為や器物損壊等の問題事象は減少しているが、不登校や人間関係のトラブル、配慮を要する生徒への対応は多岐にわたっており、これらの課題を解決するためにも、すべての教育活動を通して生徒の居場所づくり、あたたかな人間関係づくりの視点が欠かせないものとなっている。そして、仲間とともに協力して課題を乗り越えられた経験が自信となって、未知の世界へのさらなる一歩を踏み出す原動力につながると考える。

未来の担い手育成プログラム研究校としては2年目を迎え、チャレンジコンテストなどの取組を通じて課題解決型の学習に取り組んでいる。昨年度中心的に課題解決型の学習に取り組んできた第3学年の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果を見ると、「総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」という質問に対して80%以上の生徒が肯定的に捉えており、府や全国より10ポイント程度上回る結果であり、本取組の成果が一定見られていると考えている。今後研究指定校としての取組を次年度においても充実させ、総合的な学習の時間で培ってきた課題解決型の学習を各教科での実践に役立てていきたい。

(2) 研究体制



3 主な研究活動

(1) 6月19日 特別活動(2学年) チャレンジコンテストに向けて企業からの課題を知る。



- (2) 6月23日 校内研修 課題解決型の学習の実践に向け、授業の中での効果的な話し合い活動、課題設定について各グループで話し合う。
- (3) 8月23日 校内研修 令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の分析方法についての研修を実施した。また、調査結果を活用し、個々の生徒の状況交流を実施することができた。
- (4) 11月13日 総合的な学習の時間（2学年）  
各学級でチャレンジコンテストに向けた中間発表及び(株)美濃吉 佐竹洋吉様による講評及び講演



- (5) 12月13日 総合的な学習の時間（2学年）  
チャレンジコンテストに向けた最終発表を行い各学級代表を決定



課題について調べる



調べたことをまとめる



調べたことを発表

- (6) 1月31日 公開授業  
課題解決型の学習に繋がる「話し合い活動」を取り入れた授業の充実を目指した授業を公開し、校区小学校及び近隣中学校と交流協議を実施



- (7) 2月5日・6日 総合的な学習の時間（1年生）  
地元企業による竹細工体験及び竹についての学習を実施、本市特産の竹について探究をすすめ、当日は有識者からの講演や体験を通じて学びを深めることができた。





(8) 2月17日 きょうと明日へのチャレンジコンテスト

代表1グループが表彰を受けるとともに、課題解決に向けた考えを提案し、質疑応答を実施

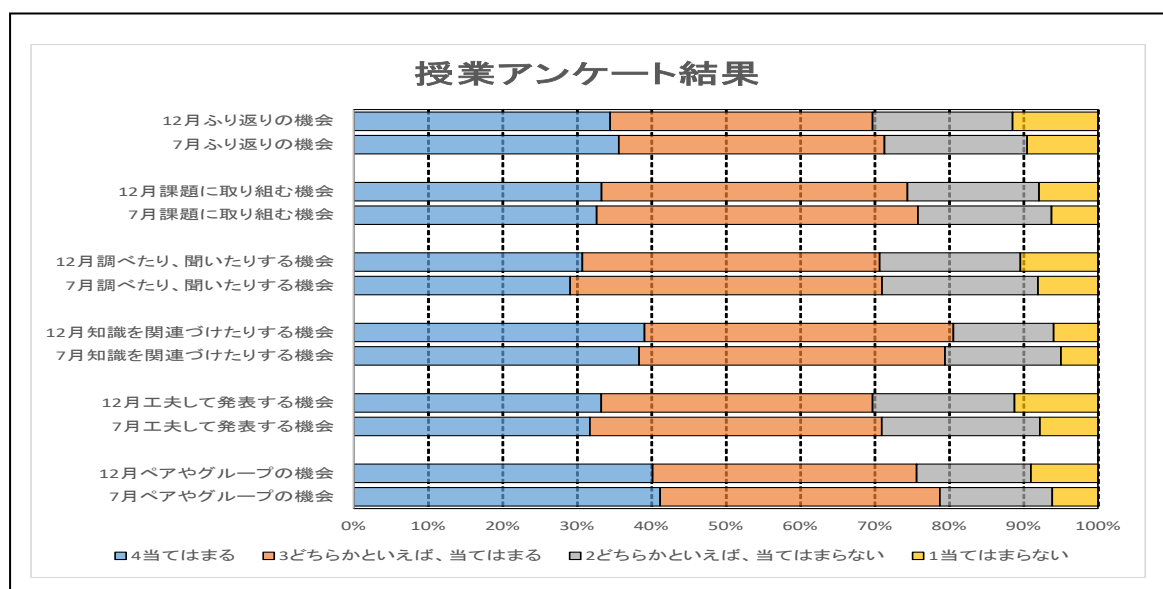


#### 4 今年度の研究の成果と検証

(1) 総合的な学習の時間の取組について

本研究校として2年目を迎え、今年度も(株)美濃吉から「新しい和食の在り方を創造して、和食文化を広めてください」という課題をいただいた。2年目とはいえ、取り組む第2学年は初めて取り組む学年であるため、どのように取組をすすめるのか生徒も学年の教師も不安な部分もあった。そこで、年度当初から前年度取組の中心であった現3学年の取組の状況や経験を丁寧に確認し、指導をすすめた。その結果、第2学年の生徒は「正解のない問い」に対して総合的な学習の時間等で解決に向けて自ら進んで学習に粘り強く取り組む姿勢が見られるようになった。取組が2年目を迎え、「調べ学習」や「話し合い」「根拠をもとに発表する」などの取組が総合的な学習の時間だけでなく、普段の各教科での話し合いや発表にも広がりを見せており、学校全体として「課題解決型の学習」を踏まえた取組が浸透しつつある。

(2) 令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の質問紙を活用した調査について



本校は生徒の話し合い活動を伴う課題解決型の学習を取り入れた授業の研究をすすめており、生徒の実態を把握し、授業改善の参考とするために、昨年度は令和3年度京都府学力診断テストの質問紙を参考に生徒へ授業アンケートを7月と12月に実施した。今年度は京都府学力・学習状況調査が実施されたので、質問紙における主体的・対話的で深い学びの経験につい

での質問項目である「振り返り」「課題解決型の学習」「調べたり聞いたりする機会」「知識を結び付けたり関連付けたりする機会」「工夫して発表する機会」「グループで話し合う機会」に関する質問を取り上げ、すべての教科において、7月及び12月に調査を実施した。上の表によるとすべての項目において肯定的な回答が70%を超えており、特に「グループで話し合う機会」「知識を結び付けたり関連付けたりする機会」が特に高い値を示していた。しかし、依然として、授業者の指導意図と生徒の授業内容に対する理解との差があることや、7月から12月にかけてそれぞれの項目で大きな変容はなかった。今後とも教職員で結果について共有し、授業改善に努めたい。

- (3) 令和5年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の非認知能力の項目について  
本校の研究主題の副題「他者と協働して課題解決に挑む」にあるように本校では学級の集団づくり・人間関係づくりを土台として、授業の中で、効果的な話し合い活動の実践をすすめており、副題に関する指標として、学びのパスポートの非認知能力の項目のうち、「学びに対する積極性」と「他者と進んで関わろうとする態度」の2項目についての結果を参考とした。今年度の結果では「学びに対する積極性」は学力との相関関係は見られたが、「他者と進んで関わろうとする態度」については見られなかった。本調査は初年度であり、今後の経過を見ながら非認知能力と認知能力との関わりや育成についてさらに研究をすすめ、授業実践に生かしたい。

## 5 今年度の課題

- (1) 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の活用  
調査結果について分析及び研究をすすめ、児童生徒一人一人の認知能力の伸びや非認知能力の変容を捉え、より効果的な育成に役立てる方策を検討し、「主体的・対話的で深い学び」を具現化し、授業改善等をすすめ、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくみたい。
- (2) 総合的な学習の時間の取組の充実  
総合的な学習の時間の中で①課題設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現の探究の過程を繰り返し取り組めるよう、計画的に取組を進め、生徒が自己の生き方を考えていくための「資質・能力」を育成する。また、教師は総合的な学習の時間の取組で学んだ指導方法を各教科の授業に取り入れ「課題解決型の学習」に取り組み、生徒の学力の向上を図る。
- (3) 効果的な話し合い活動の実践と、課題解決型の学習の充実  
「集団づくり」と「話し合い活動の充実」に引き続き取り組み、学級の集団づくり・人間関係づくりを土台として、授業の中で、効果的な話し合い活動を実践し、課題解決型の学習の研究を進め、教師の授業力向上とともに、生徒の資質・能力の向上を図っていく。

## 6 来年度の研究構想

- (1) 令和6年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～を活用し、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ研究を進める。また、引き続き「よりよい集団づくり」と「話し合い活動の充実」を柱とした授業改善を図る取組をすすめ、生徒の学力向上を目指す。
- (2) 本事業最終のまとめの年として、(株)美濃吉と連携した取組を充実させ、「課題解決型の学習」の教師の実践力を向上させるとともに、生徒の「自ら課題を解決する能力」や「自主的、自律的、計画的に学習に取り組む力」の向上を図る。